



のっぽの手

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル
 TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218
 E-mail center@f-npo.jp
 URL <http://www.f-npo.jp/>

試行錯誤の連続であった



ふくしまNPO
ネットワークセンター

理事 齋藤 實

県北NPOネットの第5回総会が去る5月26日無事終了したので、いまホッとしている。約一月まえに「のっぽの手」の原稿を依頼されたのだが、正直なところなにを書いたらいいのか分からず、考えあぐねていた。

考えてみると私がNPOにかかわったのは、NPO法が施行された1998年からだから、早いものでもう9年にもなる。NPOに関心を持ったきっかけは、地域づくり活動をいっそう発展させたいとの思いからであった。

まちの和研究所を創り当時まちづくり活動にいろいろ苦勞されていた佐藤和子さん（どうすっぺふくしま博覧会を主催）と私（ふくしま地域づくりの会事務局長）が、法制化されたNPO法についてたまたま懇談する機会があり、法のもつ目的、理念を活かすことが、お互いにそれ

まですすめてきた活動をいっそう促進するツールになるに違いないと考え、意気投合しNPO法人設立のための準備に早速取りかかった。仲間入りを、あるNPO研究集会で知り合った加藤節子さん（日本助産婦会福島県支部・現理事）に話したところ趣旨に賛同されたので、おこがましい限りだったが3人が準備会の代表世話人となり1998年7月18日「ふくしまNPOネットワーク準備会」を立ち上げた。

準備会は、NPOの活動や運営等に対し助言、援助を行う中間支援センターの設立を目的とした。東北6県、北海道の県庁所在地で福島市にだけセンターがなく、設立を急ぐ必要を強く感じていたからである。準備会には新たに「福島NPO研究会」（代表・星野珉二福大教授）が加わり、1年有余の活動を経て多くの同志の協力のもと、2000年4月8日法人設立総会の運びとなる。

NPOの活動、運営に経験を持たない同志の集まりだから、一つひとつ創意工夫が求められただけに、試行錯誤の連続であった。幸い各分野の専門家、活動家が理事として参加され、活動に協力されたからこそ今日の「ふくしまNPOネットワークセンター」があることを肝に銘じたい。

学院大NPO実習室の貸し出しについて

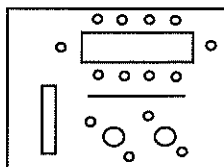
福島学院大学駅前キャンパス4FのNPO実習室（当センター管理）を、NPO、市民活動団体向けに無料で貸し出しています。プロジェクターが必要な場合は当センターの方から貸し出します。（有料）

10名程度の会議、講習会などにぜひご利用ください。

利用時間 平日10時～20時 土曜日10時～16時

問い合わせ先 TEL 024-528-1211

※駐車場はありませんのでご注意ください。
 ※実習室内での飲食はできません。



2006年度を振り返って

「原点に返ろう」をメインテーマに

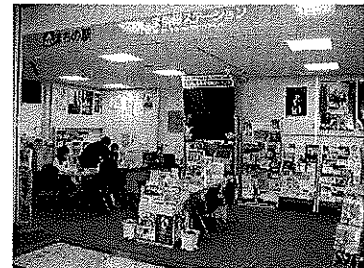
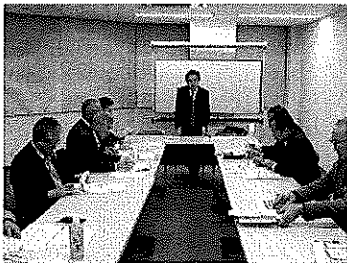
理事長 清水 修二

私が理事長になってもうすぐ1年になります。この1年間の印象を率直に申せば、まず「ヒラ理事には見えない部分がいっぱいあるんだな」ということです。コラッセふくしまの「情報ステーション」、ラビバシの「ふくサポ」、そして佐平ビル「センター事務所」の3カ所の全体を把握するのは、理事長であってすらなかなか大変です。プロの理事がいない状態でこれだけの業務を統括することの「無理」を感じないわけにはいきません。

第2に、「中間支援NPOとは何かということ」を常に考えながら仕事をしたい」と前に書いたことがあります。本センターがいかにも中間NPOらしい活動を展開しているかどうか、今でもまだ疑問です。いろんな事業で苦勞しているNPOから頼りにされ、その期待に応えられる存在になるためには、中間NPO自身が相当にレベルの高い力量を持っていないといけないでしょう。個々の人はともかく組織としては、その点が非常に不十分だと言わねばなりません。

この間、私の頭にいつもあったことの1つに「会員にどんな『サービス』を提供できているだろうか」という点がありました。会員の皆さんは当センターの業務から直接利益を受ける立場にはないわけで、そういう会員のみなさんから会費をいただいている当センターは、いったい何を「見返りに」お届けしたらよいか、ということです。機関紙を送付したりセミナーや研究会を開いたり、努力はしておりますが、会員のみなさんから率直な声を寄せていただくパイプを、もっと太くする必要性を感じます。

来年度は、いよいよ本格的に団塊世代の定年退職が始まります。生きがい志向の熟年パワーを、どう市民活動やNPOの戦力につなげていくか、中間NPOの鼎の軽重が問われる時期でしょう。私としては、珍奇なことを考えるのではなく、あくまでも「原点」に返って、NPOから信頼され、また会員のみなさんから気持ちよく納得ずくで会費をいただけるような「地力」のあるNPOにしていくことが基本的な課題だと思います。



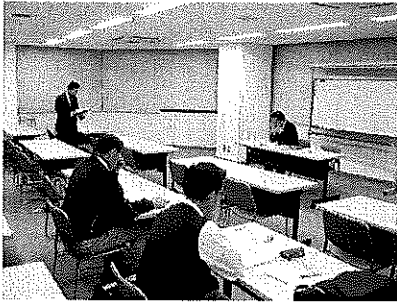
ふくしまNPOネットワークセンター7月の行事

- 7月 3日(火) 第44回NPO研究会のお知らせ
テーマ 「県内NPOの現状・課題と中間支援組織のあり方」
話題提供 星野 珉二 (ほしの きょうじ)
ふくしまNPOネットワークセンター理事
福島大学共生システム理工学類教授
ウィズもとまち 4F大会議室 18:30~20:00
- 7月14日(土) ふくしまNPOネットワークセンター2007年度通常総会
福島学院大学駅前キャンパス 5F教室3 13:30~(予定)
※詳細が決まり次第、会員の皆様には改めて案内いたします。
問い合わせ先 024-528-1211

第43回NPO研究会 (2007.3.27、於ウィズ・もとまち)

テーマ：福島県における連携・協働の実態と課題
～NPO・地域住民組織と行政～

報告者：ふくしまNPOネットワークセンター理事
福島大学人間発達文化学類助教授 牧田 実



牧田氏は、地域における連携・協働を考える場合、マッキーバーがいうところの社会集団の2類型を考慮しておく必要がある、との指摘から話を切りだした。それはコミュニティとアソシエーションという2つの類型から地域社会の連携・協働を見ていく必要があるということである。コミュニティは地域性・共同性にもとづく自然的結合の基礎的な集団のことで、伝統的な村落共同体や自治会・町内会によって代表されるものである。他方、アソシエーションは地域における特定の関心や目的にもとづく人為的結合のテーマ性をもった集団のことで、ボランティア・グループやNPOによって代表されるものである。今回の報告は、これら2つの類型を切り口に、自治体を含めた3者の間の連携・協働の現況や課題を明らかにするためにアンケート調査を行った結果にもとづいている。

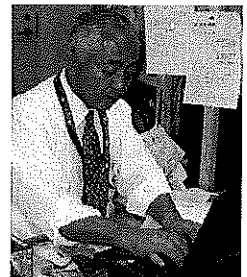
主要な結論には、地域内団体の連携・協働を進めるために解決すべき問題点として、NPO法人側では①活動資金不足、②人材不足、③社会的認知度が低いこと、地域住民組織側では①連携団体に広がりが見られない、②活動が形骸化している、③役員の高齢化が進行し組織が硬直化していること、自治体側では①NPO法人や地域住民組織のニーズを踏まえた支援策が採られていない、②NPO法人に対する理解が不十分、③施策立案等への住民参加が進んでいないこと、などが挙げられている。これらの結論を裏付ける詳しい調査結果は、安瀬・池田・木元・牧田「地域内団体の連携とコミュニティの活性化」シンクタンクふくしま『TTF MINI REPORT No.13』(2006)に載っています。
(文責 星野 珉二)

言霊への旅／私の信金道／

第二回

ふくしま情報ステーション所長

武藤 進



昭和54年信金二年目、得意先係を拝命、伊達郡保原町(現在の伊達市保原町)大字高成田・富沢そして柱田地区の担当となった。町内から遠く離れた準重点地区、定期積金の集金と定期預金の満期管理が主な仕事である。高子沼の畔から一山越えれば文知摺観音となる保原町南端、そしてやはり一山越えれば霊山町掛田となる柱田四十九院まで、大きく扇型に開いた広範な地区に散在する一軒一軒、500バイクを駆っての訪問活動が始まった。

地図を眺めながら細い農道を走り、時には田んぼのあぜ道まで入り込み、めざす家を探す。やっと、辿りついて

「ピンポーン、お早うございます。福島信用金庫です」

「あれーっ、返事がない、留守なのかな。ピンポーン」

そういう時は、名刺に日付の入った集金判を擦し裏に用件を簡単に記し、ため息をつきながらあぜ道を下り、次の訪問を期す。

農家は早朝から田んぼや畑に行っており、お昼時、それも昼寝の前か後が「勧誘、アプローチのゴールデンタイム」などということとは、駆出し得意先、未だ知るところではなかった。

昼時、やっとご本人と面会、自己紹介後、まずは、座敷に上がりコタツに入ってお茶となる。

「あんたは、どこでらんだい？」

「はい？」

「どこで、生まっちゃんだい、ってこの人、聞いてんだ、ぞい」

「ああ、なるほど、ですね。わたしは、おがべ、あの、大下住宅で生まれ…で、それで…」

「ああ、ほうがい。おがべ、がい。ホンじゃ、近くて、いいワイ、ない。」

《続く》

「ふくしまNPOネットワークセンター」理事の公募について

いま、市民活動とNPOが注目されています。

私たちの生きているこの社会はじつに多くの問題をかかえています。家族のきずなが弱体化して、子ども、女性、高齢者それぞれが辛い思いをする現実が最近とくに目立ちます。格差社会化とよばれる事態が進行し、地域の安全・安心も揺らいでいます。

こうした地域社会の諸問題に対処すべき地方自治体がまた、いま大変きびしい試練の下に置かれています。財政は危機的状况にあり、公務員を減らせという声が巷にあふれています。もはや政府に任せる、あるいは政府に要求するというスタイルでは、私たちの生活や地域の発展は図れない時代になったというべきでしょう。

他方ではしかし、明るい話もあります。「世の中の役に立ちたい」と考える人たちが次第にふえてきています。高齢社会は、一面ではそういう人材が大量に登場する社会でもあります。役所や企業の官僚的なしくみから自由な空間で、のびのびと「自己実現」をしたいと望む人たちがどんどんふえて来ると期待されます。「見る」スポーツから「する」スポーツへとといった動きも、健康志向の強まる中で広がっています。

市民活動、そしてNPOが拡大・発展している状況の背景には、そうした世の中の大きな流れがあると思います。さまざまな社会問題から浮き彫りになってくる市民活動の「ミッション」が一方であり、他方ではそのミッションを担う人的資源の可能性がふくらんでいるのです。

福島県内にはこの1月現在396のNPO法人があります。これからNPOを立ち上げようと考えている人も相当数いると思われ、NPOの数は年々ふえていくに違いありません。ただし、NPO法人の設立や運営にはいろんな課題や困難があるのが現実で、作ってはみたものの運営がうまくいかず途中で挫折するケースも今後ふえてくると予想されます。

当「ふくしまNPOネットワークセンター」は、市民活動・NPOの発展を目指して活動する「中間支援NPO」です。県内のいろんな市民活動・NPOを支援し、ネットワーキングし、行政とそれらの関係をもより良くして行くことを目的としています。

当センターの運営を担っているのは「理事会」です。NPOを知り、市民活動のノウハウを習得するための近道は、自らNPOの理事を経験することだと思います。また、現在NPO活動に従事しておられる方で、中間支援NPOにも活動の範囲を広げてみたいとお考えの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこでこのたび当センターでは、役員改選期にあたって非常勤理事(若干名)を公募することといたしました。無償の社会貢献ということになりますが、下記の事項をご認識の上、ふるってご応募くださるよう、お誘い申し上げます。

役職名 理事(非常勤)

職責 当センター事業の企画ならびに実施

資格 NPO・市民活動に関心と熱意のある方であれば可。

報酬 なし。ただし交通費実費支給。

理事会 およそ月1回、通常は平日夜間。

応募および選考方法

- ①応募提出書類 履歴書・レポート「私とNPO」(分量不問) 〆切 6月29日
- ②提出および問い合わせ先 当センター事務局 024-528-1211
- ③面接 書類選考のうえ実施日相談

編集後記・事務局便り

私事で恐縮ですが、今号を持ちまして編集より退くこととなりました。短い間でしたがお世話になりました。次号からは新スタッフの下、より充実した内容をお届けできると思います。(渡 辺)

「のっぽの手」では誌面充実の為、理事、職員はもとより、会員様、各団体様よりの投稿をお待ち申し上げております。当センターへのご意見、日頃の活動に関すること、はたまた「よもやま話」などございましたらぜひ下記宛にお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。

ふくしまNPOネットワークセンター事務局
〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビルB1
TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218
E-mail center@f-npo.jp

